

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2405 号

腰椎手術後疼痛症候群に対する後仙腸靭帯ブロックの効果に関する後方視的検討

(The Sacroiliac ligament' s block is retrospectively evaluated on FBSS)

松本 園子 (まつもと そのこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、腰椎手術後疼痛症候群 (FBSS) に対して、後仙腸靭帯ブロックを行いその有用性を報告したものである。脊椎手術を行った後に痛みなどの問題が残存する FBSS は社会の高齢化などにより脊椎脊髄障害により手術療法を要する患者が増加している今日の課題である。これらは脊髄や神経の機能異常の残存や手術に伴う筋組織の障害など様々な要因が絡んで引き起こされるものと考えられており、現在のところ治療法は確立していない。これまで 50 例以上の FBSS 症例の統計を取った報告はない。

仙腸関節は体幹を支える可動関節であり、後仙腸靭帯で結合されておりこの靭帯領域に知覚神経終末が存在し、痛みの原因となっている。筆者らは高齢者の難治性腰下肢痛に対して後仙腸靭帯ブロックの有効性を確認しており、経験より FBSS の疼痛には仙腸関節性の疼痛が含まれている可能性があるかと推測された。

本研究結果より FBSS 患者のうち、仙腸関節関連痛と診断され、後仙腸靭帯ブロックが有効であったことより、FBSS には仙腸関節痛も含まれていることが明らかにされた。他ブロックを併用せず、後仙腸靭帯ブロックのみで週毎に NRS が低下した症例は仙腸関節部に機能障害をきたしていたと考えられる。本論文により FBSS の診断時には仙腸関節痛を因子として念頭に置くべきであり、治療方法として後仙腸靭帯ブロックが有用であることが示された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。